

授業づくりのポイント

- 1 育成する資質・能力を明確にしなが、**「思考力、判断力、表現力等」**、「知識」、「技能」に関する各事項を相互に関連付けた題材の工夫
- 2 **〔共通事項〕**を要として、歌唱、器楽、音楽づくり(創作)及び鑑賞の各学習を関連させる工夫
- 3 児童生徒が音楽に関する言葉を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図などを相互に伝え合う活動の工夫
- 4 児童生徒が自分の言葉で学習を振り返り、学んだことの意味や価値を自覚できるような評価の工夫
- 5 生活や社会の中の音や音楽の動きの視点から児童生徒が学んでいることを自覚できるような学習の工夫

題材の指導計画例(小学校第2学年)

題材	様子を思い浮かべよう(8時間)		
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いをもって表現したりする。 ○ 曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりや、曲想と音楽の構造との関わりについて気付く。 		
指導計画	時間	主な学習活動	重点的に扱う共通事項
	第1時	「タやけこやけ」 歌詞の表す情景を想像しながら、歌唱する。	速度、旋律、強弱
	第2時	歌詞の表す情景を想像して、歌い方を工夫する。	
	第3時(本時)	「人形のゆめと目ざめ」 曲や演奏の楽しさを見つけ、音楽の流れを感じながら聴く。	音色、速度、旋律、強弱
	第4時	「海とおひさま」 声の出し方に気を付けて歌う。	音色、速度、旋律、強弱
	第5時	歌詞の表す情景や気持ちを想像して歌う。	
	第6時	「小ぎつね」 曲想を感じ取って歌い方を工夫する。	
	第7時	フレーズのまとまりを感じながら旋律を演奏する。	音色、速度、旋律、強弱、反復、フレーズ
第8時	音色のよさに気付きながら演奏の仕方を工夫する。		

指導計画の作成に当たっては、題材など内容や時間のまとまりを見通して、子供や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を進めます。



⇒ **特定の活動のみに偏らないようにする。**
 ♪ 児童生徒の多様な実態を踏まえ、表現及び鑑賞の活動を通して、興味・関心を引き出し、学習への意欲を喚起するために、本題材では、歌唱、鑑賞、器楽の活動を有機的かつ効果的に関連させている。歌唱や鑑賞の学習のみに偏ったり、歌唱の指導において合唱活動に偏ったり、鑑賞の指導において特定の曲種の学習に偏ったりすることがないように留意する。

⇒ **〔共通事項〕を要として学習の関連を図るようにする。**
 ♪ 指導計画の作成に当たっては、音楽を形づくっている要素や用語、記号などを共通に設定して複数の領域や分野を関連させたり、音楽を形づくっている要素や用語、記号などの一部を共通にして学びの連続性や系統性などをねらって複数の題材の配列の仕方を工夫したりする。
 本題材では、〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素のうち「速度」、「強弱」に着目して題材を構成し、学びのつながりを児童生徒が感じ取れるよう教材を選択し配列している。

1 単位時間の指導過程例

本時の目標	人形の様子を思い浮かべながら聴こう
過程	主な学習活動
つかむ	<ol style="list-style-type: none"> 1 「人形の夢と目ざめ」を聴く。 ○ 場面の変化を感じ取る。 ○ 場面毎の音楽の面白さや特徴に気付く。
見通す	<ol style="list-style-type: none"> 2 学習課題を確かめる。
追究する	<ol style="list-style-type: none"> 3 場面毎に「感じたこと」や「気付いたこと」を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽を形づくっている要素の表れ方や、要素と音楽の仕組みとの関わり合いに気付く。 ○ 楽器の演奏のまねをして、リズムなどの変化を確かめる。 ○ 部分的な楽しさを見いだすとともに、音楽の流れを感じながら全体を味わって聴く。
磨き合う	<ol style="list-style-type: none"> 4 自分が好きな場面について、理由を考え、友達と交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想を生み出す音楽の構造について気付いたことをワークシートに記入する。 ○ 感じ取った音楽のよさの根拠を基に友達と交流する。
振り返る	<ol style="list-style-type: none"> 5 本時の学習を振り返り、今後の学習について確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 旋律を口ずさんだり体を動かしたりしながら味わって聴く。 ○ 自らの学習を振り返り、変容に気付く。

多様な音楽活動を幅広く体験させることが大切。目標冒頭にも、「表現及び鑑賞の(中学校：幅広い)活動を通して」、資質・能力を育むと示されています。児童生徒が、「音や音楽」と「自分」との関係を築いていけるよう、音楽的な見方・考え方を働かせた学習の充実を図ります。



- ♪ 音や音楽によって喚起されるイメージや感情を児童生徒が意識できるようにする。
- ♪ イメージや感情を喚起される要因となった音楽を形づくっている要素や音楽の構造、曲の背景などとの関わりについて考えさせる。
- ♪ 音楽のよさや美しさなどを見だし、感じ取ったことや想像したことなどを友達と伝え合い、友達の感じ方や考え方に共感しながら、自分の感じ方や考え方を深めていくようにする。
- ♪ 学んだことの意味や価値を児童生徒が自覚できるようにする。

【更に詳しく学ぶために】

鹿兒島県総合教育センターWebサイト → カリキュラムセンター → 音楽

図画工作, 美術

授業づくりのポイント

- 1 育成する資質や能力を明確にして、題材の工夫や指導の改善を図り、児童生徒自身が新たな価値を獲得できる授業
- 2 【共通事項】ア・イを視点に踏まえ、試行錯誤の活動と言語活動を交えながら、表現と鑑賞を関連させる授業
- 3 作者の思いや主題を大切に、意欲を引き出しながら、学習の目標と計画を明確にする授業
- 4 児童生徒が、自分の言葉で学習を振り返るとともに、生活や社会に図画工作や美術の関わりを実感できる授業
- 5 児童生徒の目標達成度を明確に把握できるように必要な評価（自己評価カード、ワークシートの工夫）

題材の指導計画例

題材	私たちの町活性化プロジェクト ～ 町や店をシンボルマークでアピールしよう ～ (9時間)		
題材目標	(1) ア シンボルマーク制作の手順を考えながら、見直しをもって表すことができる。【知識及び技能】 イ 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解できる。【知識及び技能】 (2) シンボルマークが伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができる。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 楽しくシンボルマークを表現する活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中にある様々なシンボルマークに関心をもち、目的意識をもって主体的に話し合いや表現活動を行うことができる。【学びに向かう力、人間性等】		
指導計画	第1時	1 題材の把握と鑑賞Ⅰ	「シンボルマークについて鑑賞しよう」 ・ 題材の説明を聞く。 ・ 身近なシンボルマークを共通事項に沿って分析する。 ・ 基本的な美的要素について確認する。 ・ 題材を把握し、町や店などの活性化のイメージをもち、目的や条件を踏まえて、デザイン(形や色等)を考える。
	第2時	2 表現の発想と構想	「町や店を活性化するシンボルマークについてイメージをふくらませよう」 ・ 「町や店」について、アイデアマッピングを行い、必要な資料を考える。
	第3時	3 制作Ⅰ	「シンボルマークのアイデアスケッチをしよう」 ・ 必要なイラストパーツを考え、単純化を行う。 ・ テーマを表現する主題を考え、【共通事項】を踏まえてイラストパーツを組み合わせて、シンボルマークを構成する。
	第5時	4 鑑賞Ⅱ	「アイデアスケッチを互いに鑑賞し、さらにアイデアをよりよくしよう」(グループ会議) ・ よりよいデザインにするために改善点の意見交換を行い、友達のアドバイスを参考に形や色等の再検討し、アイデアを練る。
	第6時	5 制作Ⅱ	「シンボルマークを制作しよう」 ・ 作品の主題や【共通事項】形や色等、全体の構成を考え、下絵を描く。 ・ 着色方法を選択し、彩色して、完成させる。
	第7時	6 鑑賞Ⅲ	「シンボルマークをプレゼンし、町や店に掲示しよう」 ・ 自己の思いを込めて、学級でプレゼンをする。 ・ 町や店に向けて作品をプレゼンし、掲示を依頼する。
知識・技能	表現	材料や用具などの特性から制作の順序などを考えながら、見直しをもって表現している。	
評価計画	思考力・判断力・表現力等	鑑賞 【共通事項】を用いた対話、グループ会議や作品プレゼンの様子の観察、制作ワークシート ・ 各自が制作した作品と、制作への取組(主題との関連) ・ グループ会議(意見交換の様子、最終判断に至る各自の根拠、各自の価値意識の高揚) ・ 制作ワークシート(学んだこと)	
	学びに向かう力・人間性等	学びに向かう力・人間性等 ・ 制作後の作品プレゼン及び完成作品への感想記載 ・ 地域への積極的な依頼	

児童生徒の意識

シンボルマークって何だろう？
私たちの町や店を盛り上げるためのマークをつくらせよ。(思いをもつ)

町や店の理想をイメージを【共通事項：形や色など】に合わせてデザイン化しよう。(見通す)
分かりやすく、美しいデザインはどんなものかな？
参考作品をヒントにしよう。

試行錯誤活動

このシンボルマークで自分の思いが伝わるかな。その思いなら形や色は、○の感じだから、もっとこうすればよりよいと思う。(中間鑑賞会等)

試行錯誤活動

このシンボルマークを商店街に早く掲示したいな。自分の制作した思いが伝わり、町や店の人が喜びといいな。

授業展開時の確認

○ 学ぶ必要性や目的等の設定・理解、材料、環境の条件整備
○ 意欲の啓発と主題の確認

○ 造形的な視点や【共通事項】を踏まえた学習過程の確認

○ 言語活動の交流と客観的な意見を基にした作品等の再検討

○ 作品を味わい、生活と社会の関わりを意識した振り返りと制作のまとめ(掲示等)

【共通事項】

1 単位時間の指導過程例

本時の目標 (第5時)	「アイデアスケッチを互いに鑑賞し、さらにアイデアをよりよくしよう」
過程	学習内容
導入	○ 事前までの確認 市販にあるシンボルマークの参考作品を掲示し、制作意欲を喚起する。【共通事項】の色について焦点を絞り、参考作品を選択し、紹介する。 ○ 本時の目標の確認(全体目標と個人目標の設定) 【学習目標】 「グループ会議を通して、自分のアイデアスケッチをよりよいものにしよう」 ○ 本時の学習の流れの確認 グループ会議(意見交換)→アイデアスケッチ修正
展開	○ 中間鑑賞会 思考スキルを活用したり、友達からのアイデアを参考にしたりして、客観的な視点から、よりよい作品になるように工夫・改善すべき点について、交流しながら互いにアドバイスをを行う。 ○ 作品の主題を再確認し、【共通事項】と構成要素を考え、アイデアスケッチを修正する。
終末	○ まとめと振り返り(アイデアスケッチの変更点を自分なりの根拠をもって発表する。) ○ 次時以降の活動確認

1 全体の目標と個人の目標の設定

個人目標：もう少し簡単な形できれいな線の下絵を描こう。

2 学習の流れと作品修正の視点を確認【共通事項】

- ・ グループ会議は、【共通事項】などの根拠をもって話し合い、作品へのアドバイスをしましょう。
- ・ 友達の意見を参考にしながらも、自己の表現も大切にするようにしましょう。
- ※ 美しく、分かりやすいデザインを描く視点を、教師が具体的にアドバイスする。

3 試作を基にした作品の修正

自己の主題をよりよく表現できるように【共通事項】や単純化などを生かして分かりやすく描いてみよう。
※ 「深い学び」につながる指導を行う。

4 まとめと振り返り

- ・ 作品をよりよく修正した理由と次時の活動を伝えよう。
- ※ 目標と関連してまとめにつなげる。
- ※ 自己評価、ワークシート、児童生徒の姿などで評価する。

【更に詳しく学ぶために】 鹿児島県総合教育センターWebサイト→カリキュラムセンター→図画工作,美術

技術・家庭（技術分野）

授業づくりのポイント

- 1 生徒の実態の把握（小学校での学習内容、技術に関する生活体験など）
- 2 問題解決的な学習の充実
- 3 指導目標を生徒の行動によって評価できるように目標行動として表現
- 4 生徒に調べさせること、考えさせること、教師が知らせることの明確化
- 5 生徒の実習や実験の時間を念頭に置いた時間配分
- 6 授業中の形成的評価の方法を工夫

題材の指導計画例

題材	D情報の技術「情報制御教材を用いた計測・制御」（10時間）	
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータを利用した計測・制御に興味をもち、生活の中に利用されている計測・制御の技術について評価・活用しようとする態度を育てる。 ・ 目的や条件に応じた情報処理の手順や必要なシステム構成を工夫させるとともに、プログラムやシステムを作成できるようにする。 ・ コンピュータを用いた計測・制御の基本的な仕組みについての知識を身に付けさせる。 	
指導計画	第1時	生活の中でどのような計測・制御の技術があるか気付かせ、その役割を理解させる。
	第2時	計測・制御システムを構成する三つの部分(センサ、コンピュータ、アクチュエータ)について理解させる。
	第3時	ライントレースカーや身近な信号機等の例を基に、課題解決を図る情報処理の流れをアクティビティ図などで表現させる。
	第4時	前時に作成したアクティビティ図を基に、条件を満たす必要なプログラムやシステムを検討させ、課題解決を図る。
	第5時	ペアで検討した結果をグループで出し合い、必要なプログラムやシステム構成について検討させる。
	第6時	グループで、課題解決を図るプログラムの作成や必要なシステムを作成させる。
	第7時	各グループの発表を参考に、最適なプログラムやシステムになるよう再検討させる。
	第8時	各グループの発表を参考に、最適なプログラムやシステムになるよう再検討させる。
	第9時	各グループの発表を参考に、最適なプログラムやシステムになるよう再検討させる。
	第10時	これからの生活における計測・制御の技術について検討させる。
評価計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを説明できる（発表、モックテスト等）。 ・ プログラムの制作、動作確認、デバッグができる。（観察） ・ ペア・グループで課題解決に向けた活動ができる。（観察、ワークシート） 	



技術分野の授業づくりの視点として「なぜだろう?」「やってみよう!」「つくってみたい!」「調べてみたい!」といった生徒の知的好奇心の喚起を図るために導入時の工夫はとても大切です。

- 【学習過程の各段階】
- ①問題意識をもつ段階
 - ②課題を焦点化し、共有する段階
 - ③自己追究する段階
 - ④相互に練り上げ、追究する段階
 - ⑤自己解決する段階
 - ⑥自己評価する段階

「技術の見方・考え方」を中心とした学習過程

「技術に関する原理・法則」、「基礎的な技術の仕組み」の理解
※技術の「見方・考え方」に気付かせる

技術に関わる問題を見いだし課題を設定する

最適な解決方法を構想する

解決活動（製作・制作・育成等）を実施する

解決結果や解決過程を評価・改善する

※技術の「見方・考え方」を働かせる

今後の社会における技術の在り方を考える

1 単位時間の授業の指導例

本時の目標 (第5時)	身近な交差点から問題を見いだし、設定した課題を解決するためのプログラムや必要なシステム構成をグループで協働して工夫・改善することができる。
過程	学習内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時はペアで検討したプログラムやシステムを確認する。 ○ 学習課題を設定する。「目的に応じた信号機にするためには、どのように工夫すればよいか」
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題をワークシートに記入し、共有する。 ○ 必要な条件を確認する。交通量の多い時間帯と歩行者数、自動車の制限速度、歩行者の歩く速度、年齢層など ○ ペアで検討した信号機のプログラムやシステムを出し合いそれぞれのよさや改善点について話し合う。 ○ 話し合いの結果を基に、グループでよりよいプログラムやシステムを検討する。 ○ 検討したプログラムやシステムについて、グループごとに発表する。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループの発表から、それぞれのよさや改善点について、理由とともにワークシートに記入する。 ○ 次時は、プログラムの制作やシステム構成をしていくことを確認する。

そもそも技術分野の学習は、問題解決的な学習を中心とした「主体的・対話的で深い学び」であると考えられます。「単につくるだけのレベル」の学習ではなく、学びの質を上げるための授業改善を図ることが必要です。

導入

社会や生活について見直し、課題意識をもたせているか

指導目標を達成するための手立てや工夫が図られているか

展開

実践的・体験的な学習活動が取り入れられているか

完成の喜びや充実感が味わえる活動であるか

取組結果の共有や達成状況の把握ができていますか

技術分野の基礎的な理解が図られているか

終末

学習した内容を生活に生かそうとする意欲を高めているか

家庭や地域との連携が図られているか

【更に詳しく学ぶために】 鹿児島県総合教育センターWeb サイト→カリキュラムセンター→家庭、技術・家庭

家庭、技術・家庭（家庭分野）

授業づくりのポイント

1 家庭生活と関連を図る明確な課題設定

家族の一員としての自覚をもって、家庭生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成につながります。

2 課題解決へ向けての学習活動の工夫

授業では、実践的・体験的な活動を通して主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫していくことが大切です。

3 家庭生活での実践につながる振り返り活動の工夫

設定した課題の達成状況を振り返り、次の課題を明確にし、改善策を家庭や地域で実践することも考えられます。

題材の指導計画例

題材	気持ちよく生活しよう！～すっきりびかびか大作戦～（8時間）	
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできるようにする。 整理・整頓や清掃の既知に気づき、課題を解決する方法について考え、快適な住まい方を工夫することができる。 気持ちよく生活できる住まいに関心をもち、自分の住まいを整えていこうとすることができる。 	
学習過程	時	主な学習活動
生活の課題発見	①	1 自分の生活を振り返り、生活の問題から課題を設定し、本題材の学習テーマを設定する。
	②	2 家庭における整理・整頓や清掃の問題を見いだすための観点について考える（整理・整頓：機能面、安全面）（清掃：健康面、環境面など）
解決方法の検討と計画	③	3 整理・整頓の課題別グループに分かれ、解決策について話し合い、課題を追究し、情報交換を行い、よりよい整理・整頓の工夫について考える。
	④	4 清掃の課題別グループに分かれ、解決策について話し合い、課題を追究し、情報交換を行い、よりよい清掃の工夫について考える。
課題解決に向けた実践活動	⑤	5 よりよい整理・整頓や清掃について追究したことをもとに、家庭での実践計画を立てる。
	⑥	6 家庭での実践報告会を行う。また、下級生へ向けて学校でできる整理・整頓や清掃の工夫を提案する。
実践活動の評価・改善	⑦	
家庭・地域での実践	⑧	
評価計画	<ul style="list-style-type: none"> 整理・整頓や清掃の仕方を理解し、説明できる（発表、ワークシート等）。 課題に解決に向け多様な視点で考え、工夫している（ワークシート等）。 家庭や地域の人々、資料などからの情報収集や、班での話し合い活動を積極的にを行い、家庭での実践に生かしている（観察、相互評価等）。 	

（平成29年度鹿児島大学教育学部附属小学校公開研究会家庭科学習指導案を基に作成）



<問題解決的な学習の充実>



物を探すのに時間がかかる。家の清掃は、家族に頼ることが多い。

家庭生活の中から問題を見だし、課題を設定する

安全面や環境面の観点から考えれば、よりよい工夫が見付けられそう。

計画を立てて課題を解決し、振り返る

汚れの種類に応じた清掃が必要と気付いたよ。洗剤を使わない方法もあるね。

比較・検討して解決方法を考える

みんなで考えた方法を更に工夫して、家庭で実践してみたよ。家族も喜んでくれて嬉しいな。

家庭と連携し、学んだことを生活に生かす

深い学びの鍵として、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることが重要です。

1 単位時間の授業の指導例

本時の目標（第6時）	汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方について調べた課題の解決策について、環境面や安全面からも検討し、工夫・改善することができる。
過程	学習内容
導入	○ 前時に調べた解決策について振り返り、学習課題を設定する。「もっと気持ちよく生活するために、環境にも配慮したそうじの仕方を工夫し、提案しよう。」
展開	○ 汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方についてグループで調べ、実験した結果を発表する。（課題別グループ：台所、浴室、畳、窓、居間）
	○ 共通点や相違点について、話し合う。 ・ 時間が経つと汚れは落ちにくい。 ・ 汚れの種類によって、清掃の仕方は違う。 ○ 環境面や安全面から更に工夫、改善できることはないか、話し合う。 ・ 洗剤の表示をよくみる。洗剤を使わない方法等を工夫する。 ・ 伝統的な方法には、効率だけでなく環境面のよさもある。 ○ 話し合いを基に、よりよい清掃の仕方について、考えたことをまとめる。
終末	○ 学習のまとめをし、本時の学習の振り返りをする。 ○ 次時は、これまで学習したことを基に、家庭での実践計画を立てることを確認する。

1 家庭生活と関連を図る明確な課題設定

児童生徒が、既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、問題を見だし、解決すべき課題を設定します。

2 課題解決へ向けての学習活動の工夫

実践的・体験的な活動を通して、習得した知識及び技能を活用し、課題を解決できるようにすることを目指します。

解決方法の検討や、実践の評価・改善の際、グループや学級で交流するなどの活動を工夫し、考えを広げたり、深めたりできるようにします。理由や根拠を基に説明したり、記録したりします。

3 家庭生活での実践につながる振り返り活動の工夫

児童生徒が学習を振り返ることで、自らの学びや変容を自覚させ、家庭での実践への意欲が高まるようにします。

【更に詳しく学ぶために】 鹿児島県総合教育センターWeb サイト→カリキュラムセンター→家庭、技術・家庭

授業づくりのポイント

- 1 運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができる教材・教具等の工夫
- 2 「運動が苦手」、「運動に意欲的でない」児童生徒への配慮と手立ての工夫
- 3 言語活動、ICT機器の活用など、仲間と共に主体的・協働的に課題に取り組む場面の設定
- 4 児童生徒の意欲を高め、思考を促すめあての設定と、まとめ・振り返りを行う場の設定
- 5 育成を目指す三つの資質・能力について、バランスの取れた指導と評価の充実

単元の指導と評価の計画例

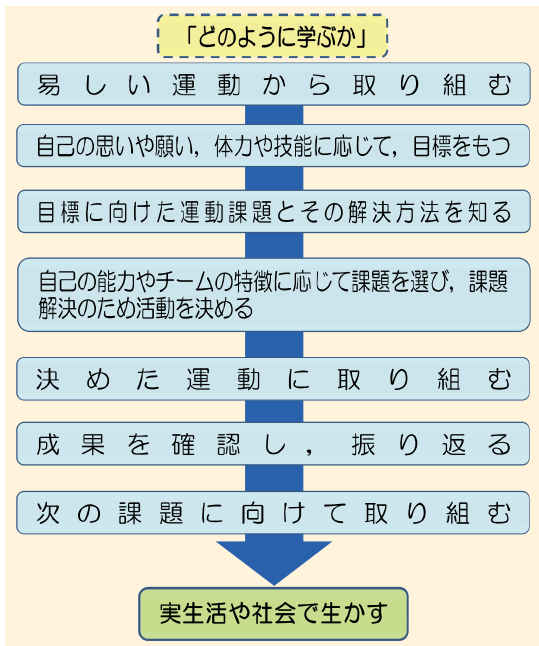
指導と評価の計画（全9時間）			
時間	主な学習のねらい・学習活動	主体的に学習に取り組む態度	運動についての思考・判断・表現
1	1 オリエンテーション 学習の進め方を知り、学習の見直しをもつ。 ・カーズの確認、フープ確認、復習決め 2 試しのゲーム 3 振り返り・片付け ・学習カードの活用の方針について	③ (観察)	① (観察)
2	1 用具や場の準備、準備運動 2 学習課題の確認 ゲームで見つけた課題の解決に向けて取り組もう。	① (観察・学習カード)	
3	3 ゲーム① 課題解決についての話し合い チーム練習 ゲーム② 振り返り・片付け	④ (観察)	② (観察・学習カード)
4	3 ゲーム① (またはミニゲームでの練習) 作戦の話し合いや練習 (または全体での確認) ゲーム② 振り返り・片付け	④ (観察)	③ (観察・学習カード)
5	1 用具や場の準備、準備運動 学習課題の確認 ゲームで見つけた課題の解決に向けて取り組もう。	② (観察・学習カード)	③ (観察・学習カード)
6	3 ゲーム① (またはミニゲームでの練習) 作戦の話し合いや練習 (または全体での確認) ゲーム② 振り返り・片付け	④ (観察)	④ (観察)
7	3 ゲーム① (またはミニゲームでの練習) 作戦の話し合いや練習 (または全体での確認) ゲーム② 振り返り・片付け	④ (観察)	⑤ (観察)
8	3 ゲーム① (またはミニゲームでの練習) 作戦の話し合いや練習 (または全体での確認) ゲーム② 振り返り・片付け	④ (観察)	⑤ (観察)
9	3 ゲーム① (またはミニゲームでの練習) 作戦の話し合いや練習 (または全体での確認) ゲーム② 振り返り・片付け	④ (観察)	⑤ (観察)

単元の評価規準例

観点	(ア) 主に初級に学習に取り組む態度	(イ) 運動についての思考・判断・表現	(ロ) 運動についての知識・技能
学習活動に即した評価規準	① 簡易化されたゲームや練習に進んで取り組もうとしている。 ② ルールやマナーを守り、反発と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ③ 用具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ 運動する場の危険物を取り除いたり整備したりするとともに、用具の安全に気を配ろうとしている。	① 誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイヤーの人数、コート広さ、プレイ上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ② 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ③ 味方が受けやすいようにボールをつなぐことや守備の隊形について工夫したことを他者に伝えることができる。	① バスケットボールのゲームの行い方を知っている。 ② 近くにいるフリーの味方にパスを出すことができる。 ③ 相手に捕られない位置でドリブルをすることができる。 ④ ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。 ⑤ 得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートすることができる。 ⑥ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。 ⑦ 学年時に指導・評価

- 【ポイント】
- 2学年を見通した年間指導計画を作成し、全職員による共通理解の基、課題解決的な学習が展開できるようにしましょう。
 - 評価規準に基づいて、指導と評価の計画を立てましょう。
 - 指導と評価の計画に従って、指導したことを評価しましょう。
 - 1単位時間に評価可能であるかということを考慮し、おおむね2観点までの設定にしましょう。

1 単位時間の指導過程例



【更に詳しく学ぶために】
鹿兒島県総合教育センターWeb サイト→カリキュラムセンター→ 体育、保健体育

外国語、外国語活動

授業づくりのポイント

- 1 「～することができる(CAN-DO)」の形式での学習到達目標を設定(学年や学期ごと)【外国語のみ】
- 2 コミュニケーションの目的や場面、状況が明確な単元目標の設定
- 3 目標達成に必要な言語活動の計画的な実施(毎時間の授業)
- 4 児童生徒が自らの学習のまとめと振り返りを行う場の設定
- 5 目標の達成度を児童生徒の姿で的確に把握するために必要な評価の実施

単元の指導計画例

単元	Unit 5 わたしたちの町 My Home Town (6時間)	
単元の目標	新しく日本へやってくるALTの先生に、私たちの住む町をよく知ってもらうために、ガイドブックを作って、行ってほしい場所や食べてほしいものなどを紹介しよう。	
指導計画	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ALTの先生からの手紙を読んで感想を発表 どんなことを紹介したいか、友達と対話 教科書を参考に、町の位置を紹介
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな場所について友達と対話 教科書を読んで、有名な場所紹介の練習 自分たちの町行ってみたい場所の紹介
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな食べ物について友達と対話 教科書を読んで、食べ物の紹介の練習 自分たちの町にあるおいしい食べ物の紹介
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの町自慢について友達と対話 グループごとに紹介したい場所や食べ物などを分担し、全員が紹介カードを作成
	第5時	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で自分が書いた紹介カードを発表 発表された内容について英語でQ&Aや意見交換 グループ内校正
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブックの内容を他のグループに紹介 ガイドブックを完成、ALTへ送る準備 単元の振り返り
評価計画	①	友達との対話やガイドブック紹介の様子を観察
	②	各自が書いた紹介カード
	③	ガイドブックの内容についてのインタビュー

主体的・対話的で深い学びの実現を図る学習過程

コミュニケーションの目的の設定・理解

面白そう！
あの人に英語で伝えたい。
意見交換してみたい。

目的に応じた発信までの方向性の決定と言語活動の見通し

こんな表現が使えるようになりたいな。
みんなの考えも参考にしよう。

目的達成のための言語活動(統合型)

この表現はうまく使えた！もっと相手に分かりやすく伝えたいな。

言語面と内容面のまとめと振り返り

工夫して伝えられた！
次はこんな場面でも使ってみよう。

1 単位時間の授業の指導例

本時の目標(第3時)	自分たちの町にあるおいしい食べ物を紹介しよう。
過程	学習内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ・ウォームアップ 自分の好きな食べ物について友達と1分間トーク 教師とのインタラクションによるこれまでの学習の振り返りと課題把握(単元の目標、その達成のために必要な活動の確認)
展開	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習目標の確認 言語活動 目標達成に必要な表現方法について確認(これまで学習したものの中で使えそうな表現の想起、新しい表現の確認) 教科書を参考に新しい表現の練習 ALTに紹介したいおいしい食べ物について、ペアで紹介 ペアでの対話を基に、ガイドブックカードに紹介を記入 グループ内で確認・修正
終末	<ul style="list-style-type: none"> 発表 まとめと振り返り 次時以降取り組みたい活動の確認

- 1 「～することができる(CAN-DO)」の形式での学習到達目標を設定
- 2 コミュニケーションの目的や場面、状況が明確な目標の設定

「不定詞の文を使おう」などではなく、「～(使用場面)において～することができる」という形で具体的な学習到達目標を設定します。
児童生徒が興味・関心をもち、学んだことを生かしながらコミュニケーションを図ろうとする主体性を引き出す工夫をしましょう。

- 3 目標達成に必要な言語活動の実施

児童生徒が実際に自分の気持ちや考えを伝え合ったり、対話的な活動を通して広がり深まった考えを基に、英文で書いてまとめたりするなど、4技能を統合的に使った言語活動を充実させましょう。

- 4 学習のまとめと振り返りの実施

- 5 目標の達成度を児童生徒の姿で的確に把握するために必要な評価の実施

児童生徒が学習を振り返り自らの学びや変容を自覚し、次の学びへの意欲が高まるようにします。
面接、エッセイ、スピーチ等のパフォーマンス評価、活動の観察など、様々な評価方法の中から、児童生徒の姿で学習状況を的確に評価できる方法を選択しましょう。

【更に詳しく学ぶために】

鹿児島県総合教育センターWeb ページ
→ カリキュラムセンター
→ 外国語科(英語)・外国語活動